

平成29年度事業報告

社会福祉法人 シルヴァーウィング

特別養護老人ホーム みさよはうす土支田

短期入所生活介護 みさよはうす土支田

特別養護老人ホーム みさよはうす土支田

1 はじめに

みさよはうす土支田は、平成 22 年 4 月開設以来、ご利用者一人ひとりの個性を大切に、小規模施設ならではの、きめ細やかなサービスをモットーに取り組んで参りました。地域に開かれた、地域の方に愛される特別養護老人ホームとして順調に推移致しているところです。

平成 29 年度におきましては、施設全体の稼働率は、利用者のニーズに的確に応える努力をしましたが、年間を通じ 97.14%（別表 7）となっています。

30 年度については利用者のみな様に、更なる高品質で付加価値の高い施設の運営を行い、真っ先に選んで頂ける練馬で一番の施設を目指してまいります。

2 事業実績について

特養は定員 30 名に対し、年平均入所者実人員は 28.7 人あった。29 年度の新規入所者は 10 名、退所者は 9 人で、理由は、病気入院による退所が 9 人であった（表 1）。また、平均年齢は、男性 91.0 歳 女性 88.1 歳、全体で 89.0 歳であり、要介護度の平均は、男性 5.0、女性 4.1、全体で 4.0 となっている。入所者の高齢化、重度化の傾向が見て取れる（別表 1～3）。

《表 1》特養退所者の状況

No.	性別	年齢(退所時)	退所月	退所理由
1	女	92 歳	平成 29 年 4 月	病院入院
2	女	94 歳	平成 29 年 5 月	病院入院
3	女	89 歳	平成 29 年 6 月	病院入院
4	女	97 歳	平成 29 年 6 月	病院入院
5	女	86 歳	平成 29 年 7 月	病院入院
6	女	78 歳	平成 29 年 9 月	病院入院
7	女	89 歳	平成 29 年 11 月	病院入院
8	女	89 歳	平成 29 年 12 月	病院入院
9	女	89 歳	平成 30 年 2 月	病院入院

3 サービス内容について

(1) 食事介助

入所者の食事摂取状況に応じて、食事の見守り、食事介助を行い、誤嚥や嚥下状態の低下傾向のある入所者については、適切な食形態の検討を行い、経口摂取の維持に努めた。なお、平成 29 年度末現在で、食事介助を必要とする人が 9 名、食事形態別では、常食 5 名、一口大 5 名、きざみ食 7 名、ごくきざみ食 5 名、ミキサー食 7 名となっている。

また、体調等を考慮し、居室配膳や居室での喫食を実施した。

(2) 入浴介助

入所者の身体状態に合わせ、平成 29 年度末現在、特浴(9 名)、チェア浴 (17 名)、一般浴 (2 名) の 3 機種の中からより安全な入浴方法を選び、週 3 回の入浴を実施した。

(3) 排泄介助

おむつ交換は、1 日 6 回の定時交換 (1 時、5 時、9 時、13 時、16 時および 20 時) のほか、随時の個別確認、及びナースコールによる要請により実施した。

(4) 栄養管理

特養入所者については、つぎの栄養ケアマネジメントを実施した。

- ①毎食後の食事摂取量の記録
- ②月 1 回の体重測定 (新規入所者は入所時)
- ③健康状態の把握
- ④褥瘡の状態の把握

(5) 健康管理

嘱託医による週 1 回の内科往診および月 2 回の精神科の往診があり、通院治療が必要な場合は、家族の協力等により受診し、入所者 1 人ひとりが、心身共に健康で充実した日常生活を送れるよう健康管理を行った。

今期も、9 月に健康診断を実施。10 月から 11 月にかけて、家族の承諾によりインフルエンザ予防接種を実施。11 月は、希望者のみ肺炎球菌ワクチン接種を実施した。生活の場における保湿、室温管理、脱水予防などを徹底した。一方、職員のうちがい、手洗い、マスクの着用を早期に励行し予

防を徹底した。

(6) 機能訓練

①常勤の機能訓練指導員を中心に、看護師、介護職、理学療法士（非常勤）および言語聴覚士（非常勤）等が連携し、身体、嚥下、言語等の機能面においてより充実したリハビリを実施した。

特に、理学療法士（非常勤）は、個別機能訓練計画書に基づき、現在の身体の様子を確認しながらリハビリを行い、計画の変更があれば、介護職にもポイントを指導した。併せて、車イスやベッドでのポジショニングについても、指導した。また、言語聴覚士（非常勤）は、個別に話す、聞く、食べることについて指導し、集団で口腔体操により誤嚥予防のリハビリを実施した。

②27年度から、歯科医師による口腔ケアを週1回実施してきたが、29年度で終了した。

(7) レクリエーション

月1回の誕生会、その他、カラオケ（童謡、懐メロ）、公園への散歩、お化粧、お茶会、ボーリング、風船バレー、棒体操、ぬり絵、折り紙、映画鑑賞など、入浴日を除く毎日、職員が中心となり、実施した。

《表2》 年間行事

4月	お花見（14名参加） 施設周辺の桜見物して、春を満喫された。
5月	5月23日 外食レク（4名参加）
6月	6月11日 28年6月以降の入所者のための歓迎会開催し、記念品を贈呈した。（6名）
7月	7月7日 七夕会開催（13名参加）
8月	8月23日 ハワイアン音楽を聞きながら茶話会を開催（10名参加）
9月	9月16日 フラダンス鑑賞会（20名参加）
10月	外食レクを予定していた日が、天候不順のため中止となった。
11月	11月21日 江戸かっぽれ鑑賞会（22名参加）
12月	12月17日 ボランティアによるクリスマス演奏会（15名参加） 12月24日 クリスマス会（12名参加）
1月	1月3日 職員による獅子舞を、各フロアを回りながら行い、利用者の方々から、喝采を浴びました。一年無病息災を祈って利用者の頭を噛むと、合唱されたりして大変喜ばれました。（20名参加）
2月	節分の豆まき 本物の豆は痛いので、タマゴボーロを代用して豆ま

	きをした。鬼の面を被った職員が投げた豆を避けるのに逃げ回ったりして盛り上がった。(20名参加)
--	---

《表3》 ボランティアによるレクリエーション

NO.	内容	日時	出演者等(敬称略)	参加者数
1	フラダンス	平成29年9月16日 14:00～14:30	長塚尚子他5名	22人
2	江戸かつぽれ	平成29年11月21日 14:00～14:30	「華組」(2人)	25人
3	クリスマスミニコンサート	平成29年12月17日 14:00～14:30	長塚尚子	21人

※参加者数は利用者家族を含む。



フラダンスショー



江戸かつぽれ

4 家族等との連絡調整等

小規模な施設の特性を活かし、来所された際には、個別にご家族に利用者の現況を伝え、情報共有に努めた。また、来所のあまりないご家族には、季節の節目には、連絡を入れ、現況を伝えるようにした。

- ・ご面会者数 延べ2,203人(1日平均6.03人)

5 各種委員会等

下表の委員会等を定期的開催し、利用者のケア等について検討した。

《表 4》

委員会名	内 容
①栄養委員会	利用者の栄養ケアに関すること
②感染症対策委員会	施設内外の環境衛生、感染症の予防等に関し、ノロウイルス、インフルエンザ、手洗いうがいの励行について。
③褥瘡対策委員会	褥瘡の予防、処置等に関し、おむつ交換、体位交換、皮膚の洗浄の必要性について
④身体拘束廃止委員会	利用者の身体拘束に関する基準、説明と同意に関することについて
⑤事故防止委員会	利用者等にかかる事故の防止に関することについて
⑥防災・安全対策委員会	災害防止及び災害時の対応等に関すること
⑦リハビリ委員会	個別機能訓練等の検討等に関すること
⑧レクリエーション委員会	利用者のレクリエーションの計画・実施等に関すること
⑨ボランティア活用推進委員会	ボランティアの活用、登録等に関すること
⑩入所判定委員会	入所者の選定に関すること
⑪職員会議	施設全般の運営・管理等に関すること、情報伝達等
⑫安全衛生委員会	職員の労働環境、健康管理の確保等
⑬研修委員会	全職員の知識・技術の向上等のための研修に関すること

6 職員研修

集合研修を実施することが困難なシフト制職場であるため、同一内容を伝達研修やDVD研修を活用する等の工夫を行った。

《表 5》

No.	名称	開催日	人数	備考
1	国際福祉健康産業展	平成 29 年 5 月 20 日	1 名	職場内研修
2	HAL 装着操作研修	平成 29 年 6 月 1 日	2 名	法人研修
3	介護福祉士実務者研修	平成 29 年 7 月 14 日 ～12 月 31 日	1 名	三幸福祉カレッジ
4	介護保険施設・事業所 における目標管理	平成 29 年 7 月 17 日	7 名	職場内研修
5	職場環境作り講習会 (腰痛予防対策)	平成 29 年 8 月 3 日	1 名	練馬区介護保険課
6	高齢者虐待、身体拘束 ゼロ、認知症高齢者の 理解、成年後見制度	平成 29 年 10 月 16 日	7 名	職場内研修
7	記録の書き方	平成 29 年 9 月 1 日	4 名	法人研修
8	介護事故予防研修	平成 29 年 11 月 6 日	7 名	職場内研修
9	褥瘡予防、活動への参 加におけるポジショニ ングを考える	平成 29 年 12 月 13 日	1 名	法人研修
10	感染症対策研修 1	平成 30 年 1 月 22 日	4 名	職場内研修
11	介護事故予防研修	平成 30 年 2 月 5 日	6 名	職場内研修
12	消火器・AED 操作研修	平成 30 年 2 月 26 日	6 名	職場内研修
13	高齢者虐待防止、身体 拘束ゼロへの取組み	平成 30 年 3 月 19 日	6 名	職場内研修
14	感染症対策研修 2	平成 30 年 3 月 26 日	7 名	職場内研修

7 ボランティアの受入れ

平成 25 年度に制定した「ボランティア活用推進要綱」に沿って、ボランティアの利用を図っている。平成 29 年度は、練馬区を中心にボランティア活動をしている「華組」による江戸かつぽれや、ご家族様参加によるショーなどを行

った。

8 実習生の受け入れ

平成25年度に制定した「介護実習生等受け入れ要綱」に沿って、実習生の受け入れを図っている。平成29年度は、小学校および中学校教諭の教員免許状の取得を希望する学生を、介護等体験の実習生として、6名を受け入れた。

9 職場体験事業希望者の受け入れ（主催：東京都福祉人材センター）

介護業務への就労を希望する者を施設に受け入れ、介護サービスや業務内容の理解を深め、介護職場への定着を図ることを目的とする職場体験事業について、実習生として、1名を受け入れた。

10 福祉職場サポート業務希望者の受け入れ（主催：東京都福祉人材センター）

主婦や高齢者等が対象で、施設での補助的業務（清掃、洗たく、配膳・下膳等）に関する就業体験を希望する者を、研修生として1名受け入れた。

11 インターンシップの受け入れ

介護業界、介護機器および福祉政策などに関心があり、自分なりの目的を持って主体的にプログラムに参加し、成長したいと考えている大学等の学生を受け入れている。平成29年度は、応募者がいなかった。

12 介護ロボットの導入

(1) ロボットアシストウォーカーRT.1 1台

シルバーカーを使用して、歩行するが、もう少し長い距離を歩きたい利用者に使用していただき、歩く楽しさを感じてもらう。



13 介護ロボットに関する研究事業

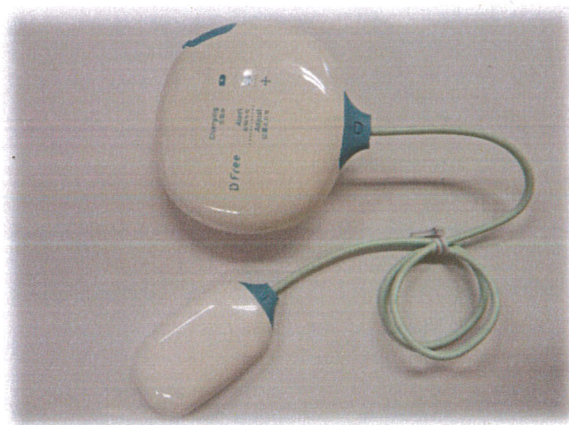
厚生労働省が所管する「平成 29 年度介護ロボットのニーズ・シーズ連協 協調協議会設置事業」に参加し、介護ロボットを導入する施設において、解決すべき課題（ニーズ）を明らかにし、それを解決するための技術（シーズ）とマッチングさせ、施設における介護業務の中でより効果的介護ロボットの開発促進に寄与する実証試験の一翼を担った。

【対象分野】

1 排泄

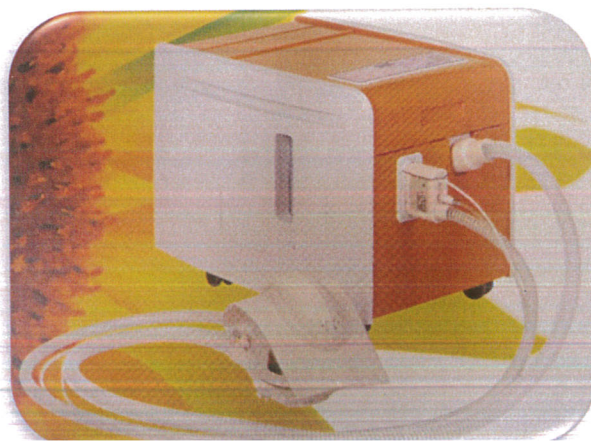
(1) 「Dfree」 3 台

利用者の排尿パターン検知による、排泄予測を可能にし、介護サービスの向上と介護者の負担軽減を目的とした。



(2) 「自動排泄処理装置リバティひまわり」 1 組

利用者の排泄に伴う不快感の解消と排泄介護の負担軽減を目的とした。



2 見守り

(1) 行動見守りシステム 1組

居室内に、つぎの見守り機器を導入し、利用者がベッドからベッド脇のポータブル・トイレに移動したのか、居室内のトイレに移動したのかを検知し、後者の場合、介護者が介助に駆けつけられる仕組みを取り入れた。

《設置機器》

- ① 統合監視ソフトウェア
- ② 見守りセンサー付きベッド
- ③ 見守りセンサー
 - ・ドアセンサー
 - ・人感付ドアセンサー
 - ・人感センサー

14 地域貢献（連携）

（1）東京子育て応援事業

平成 28 年 9 月から、公益財団法人東京都福祉保健財団の助成を受けて、地域に対する社会貢献の一環として、「子ども食堂」を特養施設内で運営をしてきた。平成 29 年度は、6 月から「子ども食堂」と併せて、「そろばん教室」を開始した。

- ① 原則として、毎月第二土曜日に開催
- ② 延参加者数は、55 名



（2）環境美化活動

地域の美化活動に貢献するために、「みさよはうす土支田おそうじ隊」を結成して、練馬区の環境美化活動団体として登録している。

練馬区では、毎年 5 月と 11 月の最終日曜日は、区内一斉清掃事業日（ごみゼロデー）と定めていることから、施設でもこれに合わせて、年 2 回一斉清掃活動を行った。

- ・ 日 時 平成 29 年 5 月 28 日（日）
 平成 29 年 11 月 26 日（日）
- ・ 場 所 施設周辺

短期入所生活介護 みさよはうす土支田

1 はじめに

ショートステイは定員 2 名であるが、特養入所者の入院等による空室利用により、年間利用者数は、男性 19 名、女性 73 名、合計 92 名で、前年度比 36 名減であった（別表 5）。

これは、ショートステイを長期に利用された方と繰り返し利用される方が、増えたこともあるが、29 度中に練馬区内にユニット型特養が 2 か所新規開設したことにより、ショートの施設が 24 部屋増加したことも、一因として考えられる。

ショートステイ利用者の平均年齢は、男性 80.0 歳、女性 88.2 歳、全体 86.7 歳だった（別表 4）。また、要介護度の平均は、男性 3.0、女性 2.8、全体 2.8 だった（別表 6）。ショートステイの稼働率については、特養利用者が、疾病により入院した場合、その部屋をショートステイ利用希望者に活用していただくよう居宅介護支援事業所へ積極的に情報提供し、コミュニケーションを図り、空室を作らないよう有効活用を心掛けている。

ショートステイの年間利用率は、119.04%だった（別表 5）。

2 サービスの実施状況

(1) 事前面接調査と情報の共有

短期入所でも、その期間は快適な施設生活を送って頂くようにするため、医療処置の有無、日常生活の介護の方法、ご家族の要望等を事前面接で聞取り、職員間の情報共有を図り、対応した。

(2) 施設までの送迎

ドア・ツウ・ドアの送迎サービスを行った。

(3) その他

①入浴は、（月）（水）（金）の週 3 回実施。

②ショートステイ利用者のうち、長期間定期的に利用される方については、機能訓練指導員による個別機能訓練を実施した。

29年度実績 延べ53人

③その他施設内のサービスは特養の利用者と同様とした。

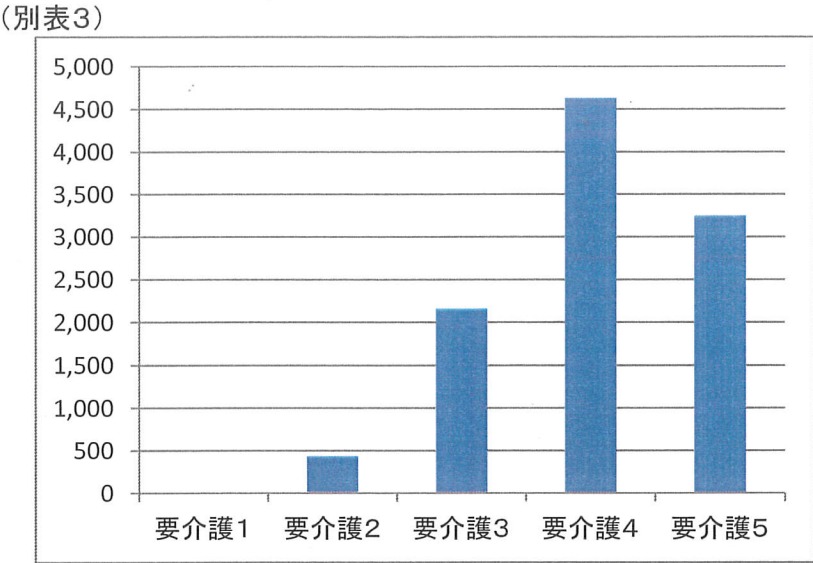
(別表1)
<年度末平均年齢>

	性別	人数	平均年齢	年齢分布
特養	男	2	91.0	88～94
	女	28	88.1	80～96
	(全体)	30	89.0	80～96

(別表2)
<月別利用者の状況>

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
特養 (定員30名)	要介護1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	要介護2	60	62	60	62	62	60	62	0	0	0	0	0	428
	要介護3	150	155	150	178	186	175	174	180	200	217	193	201	2,159
	要介護4	457	434	411	423	403	364	403	390	382	356	301	313	4,637
	要介護5	180	230	210	221	279	270	279	313	301	331	307	330	3,251
	計	847	881	831	884	930	869	918	883	883	904	801	844	10,475
	要介護平均	3.9	4.0	3.9	3.9	4.0	4.0	4.0	4.2	4.1	4.1	4.1	4.1	4.0
	実人員	29	30	30	31	30	30	30	30	30	30	29	29	358
	延べ定員数	900	930	900	930	930	900	930	900	930	930	840	930	10,950
	1日平均利用者数	28.2	28.4	27.7	28.5	30.0	29.0	29.6	29.4	28.5	29.2	28.6	27.2	28.7
	稼働率	94.11%	94.73%	92.33%	95.05%	100.00%	96.56%	98.71%	98.11%	94.95%	97.20%	95.36%	90.75%	95.66%

(注) 本表では、在籍日数により算出しています。



(別表4)

＜年度末平均年齢＞

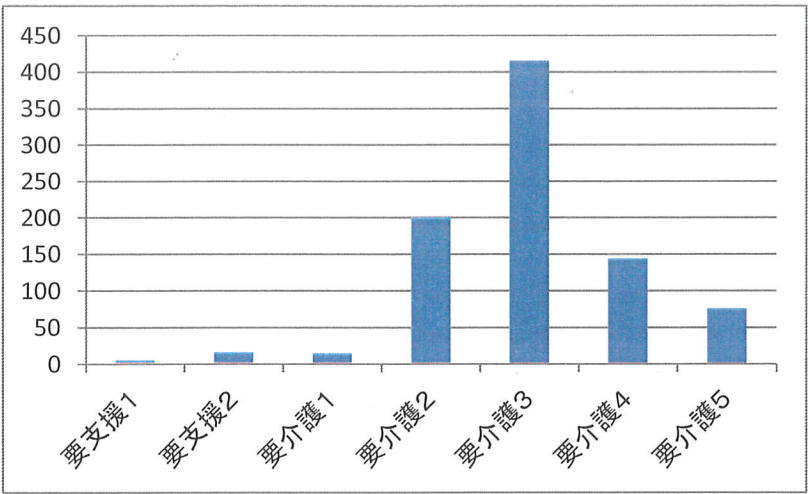
	性別	人数	平均年齢	年齢分布
シヨートステイ (介護予防含む)	男	2	80.0	69～91
	女	9	88.2	77～94
	(全体)	11	86.7	69～94

(別表5)

＜月別利用者の状況＞

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
シヨートステイ (介護予防含む) (定員2名)	要支援1										4			4
	要支援2												15	15
	要介護1	0	0	0	0	0	0	2	3	6	3	0	0	14
	要介護2	30	33	13	13	12	13	10	9	11	13	19	24	200
	要介護3	38	20	50	28	25	30	37	26	28	39	45	50	416
	要介護4	30	10	39	21	0	25	0	5	0	9	0	5	144
	要介護5	9	3	2	9	16	6	3	0	5	10	13	0	76
	計	107	66	104	71	53	74	52	43	50	78	77	94	869
	要介護平均	3.0	2.8	3.2	2.9	3.2	3.1	3.0	2.4	2.5	2.7	2.7	2.6	2.8
	実人員	7	8	10	7	5	8	8	7	7	7	7	11	92
	延べ定員数	60	62	60	62	62	60	62	60	62	62	56	62	730
	1日平均利用者数	3.6	2.1	3.5	2.3	1.7	2.5	1.7	1.4	1.6	2.5	2.8	3.0	2.4
	稼働率	178.33%	106.45%	173.33%	114.52%	85.48%	123.33%	83.87%	71.67%	80.65%	125.81%	137.50%	151.61%	119.04%

(別表6)



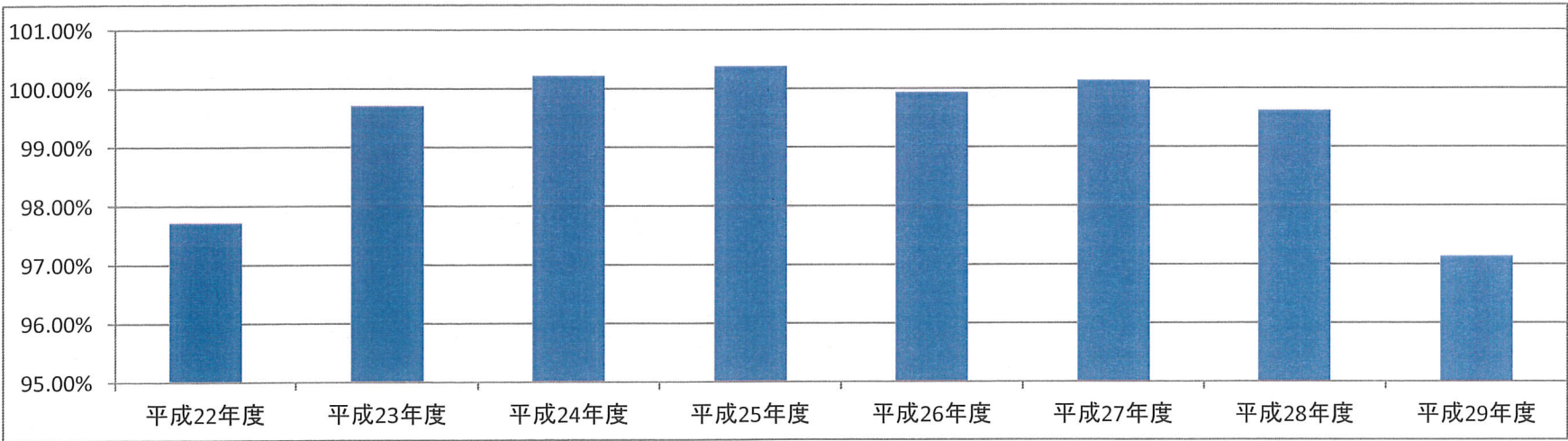
(注)本表では、退所日は日数には含んでいません。

(別表7)
<月別稼働率>

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
特養・ショート（定員32名）	特養	847	881	831	884	930	869	918	883	883	904	801	844	10475
	ショートステイ	107	66	104	71	53	74	52	43	50	78	77	94	869
	計	954	947	935	955	983	943	970	926	933	982	878	938	11344
	延べ定員数	960	992	960	992	992	960	992	960	992	992	896	992	11680
	稼働率	99.38%	95.46%	97.40%	96.27%	99.09%	98.23%	97.78%	96.46%	94.05%	98.99%	97.99%	94.56%	97.14%

(注)本表では、実利用日数で算出しています。

(別表8)



稼働率	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
	97.71%	99.70%	100.21%	100.37%	99.93%	100.13%	99.62%	97.14%

平成29年度